

## 望む作業への結びつきを強めたことで外出活動の再開が図れた事例

○竹内 知仁<sup>1)</sup>

1) 鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科

**Keywords:** 意味のある作業, 訪問リハビリテーション, 活動と参加, 活動の質評価 (A-QOA)

### 【はじめに】

今回, BPSD により家族との外出が制限されたアルツハイマー型認知症を呈す事例を担当した. 西田らは, 認知症高齢者の興味や関心のある活動との結びつきを促す技能を家族に指導することは BPSD を軽減し認知症の人の生活の質を向上することに繋がる<sup>1)</sup>と述べている. (西田ら, 2017) そのため訪問リハビリにてライフヒストリーカルテ (以下 LC) と活動の質評価 (Assessment of Quality of Activities 以下 A-QOA) を用いて介入した結果, BPSD が軽減し外出の再開に繋がった経過を以下に報告する. なお本報告は, 本人及び家族に口頭と書面にて同意を得ている.

### 【事例紹介】

A 氏, 80 歳代後半の女性, X 年 Y 月にアルツハイマー型認知症の診断を受けている. 生活状況は長男と持ち家にて同居し, 主には別居の次女 (KP) が外出を含む生活支援を行っている. 要介護 1 の認定を受けデイサービスの利用を検討するも, 拒否が続き X+3 年 Y 月に訪問リハビリが開始となる. 訪問リハビリ開始より 1 年が経過し A 氏の望む作業には従事できていたが, 地域住民への暴言や入浴施設への外出支援を拒まれる頻度が増加し家族との外出が制限されている状態である. FIM は 106 点であり, HDS-R は 17 点である.

### 【作業療法評価及び介入方針】

A 氏の demand は「地域のもんは何もせん, 私は忙しい」, 次女からは「言うことを聞いてくれないと怒ってしまう. お風呂に入ってくれればと安心して」と聴取した. LC を用いた面接では A 氏は地域の景観を守ることを生きがいにしており「草抜きを通して人の役に立ちたい」や「歌唱や家族との外出が楽しみ」と聴取した. A-QOA では認定評価者が次女と A 氏の活動状況を客観的に評価し①掃除・草抜き 48 点, 1.70probit②歌唱 51 点, 1.95probit であった. 評価結果より活動状態は悪い状態, 活動と対象者の結びつきは弱いと解釈された. そのため介入方針として環境調節や家族へ対応方法の提案, 練習を行い作業との結びつきを強化し BPSD の軽減に繋げ外出の再開を目指すこととした.

### 【経過】

掃除・草抜きへの介入は地域住民に対して家族と共に病状, 対応方法の説明を行い A 氏が希望する箇所へ掃除道具の設置を行い地域住民が清掃活動に取り組みやすいように環境調節を行った. 歌唱への介入は使用器具の変更と歌詞が目に入りやすい環境へと調節し A 氏と家族と共に活動を行う中で, 日々の活動提供方法の説明と対応練習を行った. また LC と A-QOA の結果を基にデイサービス体験時に, ケアマネジャーと施設職員に活動提供場面の留意点等の情報共有を行った.

### 【結果】

A-QOA の結果は①掃除・草抜き 64 点, 3.38probit②歌唱 66 点, 3.66probit. 活動状態は良い状態で, 活動と対象者の結びつきも強い状態である. 地域住民への暴言や妄想は減少し, 家族との定期的な外出の再開が図れている. また週 1 回デイサービス利用し, 安全な在宅生活の継続が図れている. 介入後の FIM は 109 点であり HDS-R は 17 点, 要介護 1 と維持傾向である.

### 【考察】

今回, 意味のある作業に従事できていると解釈していた A 氏に対し LC と A-QOA を使用し, BPSD の出現理由を考察した上で介入方針の変更と環境調節を行なった. このことは A 氏の望む作業との結びつきを強め, 活動の質向上に寄与したと考える. また生活史に沿い, 思いに沿った環境設定や活動支援, 多職種連携を行うことで家族との外出活動の再開に繋がったと考える.

1) 西田征治・藤巻康一郎・高木雅之・山西葉子・上城憲司 (2017) 「認知症高齢者の興味ある活動を支援する技能の獲得を図る 家族教育プログラムの効果」『明治安田こころの健康財団研究助成論文集』, (52) ,p.156-162